

平成28年度 学校評価アンケート（教職員）結果について

1 本年度の教職員評価の傾向について

(1) 母集団の変化

評価をおこなう教職員51名のうち、H28年度9名、H27年度は6名が入れ替わっている。

(2) 本年度の評価

集計結果を分析すると、平均評価ポイントは、全体で平均0.3ポイントダウンとなった。全ての項目で平均値は前年度と同じか下回った。

(3) 項目ごとの成果と課題

全体平均で0.3ポイントダウンしたことから、H28年度評価の数値を詳細に分析し、H27年度と比較することで、成果と課題を発見した。

2 高い評価(4.5以上)を維持している項目

(1) 質問項目1「教育目標の設定」

個々の生徒の進路希望実現に向けた様々な取組が適切に実施されており、適切に評価・改善が図られている。

(2) 質問項目12「学校の特色(S S Hや医進類型)を考慮した教育課程の編成」

指定事業の成果が生徒の学力向上に活かされていることがわかる。ただし、S S Hに関する項目13(全校体制としての運営)については、大きな落ち込みとなっている。

3 前年度より向上したと考えられる項目

(1) 質問項目25「部活動・生徒会活動によるリーダーシップ等の育成」

「知・徳・体のバランスのとれた人間形成」に関わる質問項目7も、前年度より向上したと考えられる値を示しているので、課外活動等の教育的価値を理解して生徒に関わっているということがわかる。

(2) 質問項目30「地域の活動や行事への積極的な参加」

書道全道大会、合唱部のNコン全国大会出場、主権者教育(18歳生徒の選挙)、運動部の活躍などで新聞取材を受ける機会が多く、その影響で様々なイベントへの参加も増えたことが評価とつながった。

4 前年度より低下したと考えられる項目

(1) 質問項目21「進路指導方針の明示、生徒・保護者への説明」

「自己の在り方生き方、職業観を育む進路指導」に関わる質問事項23も、同じように低下したと考えられる値を示していることから、職員間の共通理解の深化と担任・各種通信・HPなどを活用した進路情報の提供や発信について効果的な方法の検討が必要である。

(2) 質問項目3「学校運営を効率的に行うための組織や業務の改善」

改善がなされていない、もしくは、改善の余地がまだある、と本年度の状況を分析した教職員が増えたと考える。公務の割振りや分担、組織編成等の配慮及び、協働意識の醸成への働きかけを行うことが大事だと考える。

5 その他(自由記述)

知・徳・体のバランスの取れた教育活動の見直しが必要(知の内容が生きる力になるような研究をしていくべきでは)

6 次年度へ向けて

(1) 生徒や保護者、地域住民等が、湖陵高校の教育活動を正しく理解できるよう、目的や理由、実施により期待される成果等を明確に伝える工夫や取組を職員全体で行うことが大事である。

(2) 教員定数や各指定事業に係る加配人数等のバランスをとりながら、最大限の教育効果が発揮できるような校内体制の見直しを引き続き進める。